ふるさとの誇り 其の32

武家の名門 小笠原氏の祖 小笠原長清 ①

宝珠寺の毘沙門天立像（多聞天像・市指定文化財）
※非公開のため、拝観する場合は事前相談が必要です。

南アルプス市内のすべての小学校が修学旅行で訪れる、古都鎌倉。みなさんは、およそ800年前に鎌倉幕府創建に活躍した武将が南アルプス市にいたことをご存知でしょうか。

今回は、後にその子孫が全国各地で大名として活躍するなど天下の名門として発展していく一族「小笠原氏」の祖、「小笠原長清」をご紹介します。

小笠原氏の祖「小笠原長清」

小笠原長清は、源頼朝と同じ清和天皇の流れをくむ源氏の一族で、弓の名手として名高い加賀美遠光の次男として応保2（1162）年に生まれました。長清は小笠原に館を構え、後に小笠原長清と称して小笠原氏の祖となります。

代々惣領が受け継ぐ土地「原小笠原」

小笠原小学校付近には今も「御所庭」や「的場」という地名が残されており、江戸時代の地誌「甲斐国誌」は「御所庭」について「小笠原長清居宅ノ南庭」と説明しています。小笠原という地名は北杜市明野にもあり、二つの小笠原は古文書では「山小笠原荘」「原小笠原荘」と呼ばれ、「山小笠原荘」が明野を指す古文書があることから、「原小笠原荘」は南アルプス市小笠原をさすとみられます。

室町時代、小笠原氏の惣領が代々次の惣領に引き継ぐ領地などを記した「譲状」には、甲斐国のほか、信濃など全国の多くの所領が記されており、必ずその筆頭に記されているのが「原小笠原荘」つまり南アルプス市小笠原であり、いかに小笠原氏にとって重要な場所だったかが伝わります。

源頼朝に仕えた長清

長清は父遠光とともに幕府の創建に活躍し、頼朝の信頼を得、吾妻鏡などの鎌倉武士を描いた書物には頼朝の側近として多く登場します。特に、長清が頼朝の弟範頼に従軍していた際、頼朝が範頼に宛て「かがみ殿（長清）、ことにいとおしく（中略）これをはぐくみ候…」と長清に対し特別に目をかけるよう手紙を送った話は有名です。

小笠原長清公館跡の石碑
小笠原小学校の校庭に建てられています。

加賀美遠光・小笠原長清父子坐像
（開善寺蔵）

小笠原長基自筆譲状（東京大学史料編纂所蔵）
各所領が記される中その筆頭に原小笠原荘（庄）の文字が読めます。

また、頼朝は平家によって失われた東大寺を再建し、有力御家人に造仏を命じます。長清も多聞天（毘沙門天）像を造りますが、山寺の宝珠寺にも同じく多聞天像が伝わっており、これも長清によるものとみられます。

流鏑馬の名手

当時は騎射技術が優れていることが武者の条件であり、そのような中で長清は、当時「弓馬の四天王」に数えられ、頼朝のもと流鏑馬の作法を定めるほどの騎射技術の名手です。長清の優れた武芸は子孫に受け継がれ、「小笠原流流鏑馬」「小笠原流礼法」として発展していくこととなります。長清から続く弓馬の伝統や、その後の小笠原氏の歩みなどは次回紹介したいと思います。

※流鏑馬：疾走する馬上から的に弓矢を射る、日本の伝統的な騎射の技術・稽古・儀式のこと。